

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 95

2011年1月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



生物多様性を意識して行動しよう！

うしく里山の会代表理事

坂 弘毅

あけまして

おめでとうございます。

生物多様性豊かな里山の人気者

皆様には輝かしい新年をお迎えになられたことと拝察いたします。昨年(2010年)は生物多様性条約第一〇回締約国会議が名古屋で開催されました。自然状態の約千倍といつかつてないスピードで進行している生物多様性の喪失を食い止めるため、世界が一堂に会しました。うしく里山の会でも多くの事業を推進し、環境保全の一翼を担ってきました。

昨年一年を振り返ってみますと、会独自の活動の他、小野川探検隊(根古屋川・小野川)、ひたち野うしく七夕フェスタ、社会福祉協議会親子ふれ合い体験(牛久城中)、かつば祭り遊びの広場、南部の自然を守る会活動、牛久沼ウナギ放流、うしく・暮らし・環境まつりなど、牛久市や他団体との協働が例年以上に増えた年でした。

これは、うしく里山の会の活動理念が世間に認知された結果ではないかと思えます。里山の会も観察の森も本当に多忙な一年でした。今年一年を締めくくる出来事としては、十月、ジャパン・バードフェスタにおいてグランプリ・オオバン賞を受賞、十二月には、大好きいばらきエコチャレンジ2010事業所部門において、牛久自然観察の森が見事県知事賞(グランプリ)を受賞しました。いずれも森の職員のためまぬ努力が功を奏したものと思えます。

今年三月末で牛久自然観察の森の指定管理期間が終了しますが、この最終年度において素晴らしい成績を残すことが出来ましたことに改めて御礼申し上げます。

平成二十三年度は、会創業以来、初めての収益事業を開始します。これまで助成金や会費による運営から、一歩も一歩も前進するため、収益事業という厳しい選択をしました。会の設立趣旨を更に前進させるため、会員の皆様におかれましては、更なるご支援のほどお願い申し上げます。



街頭樹

チーム街路樹20 受託事業報告

小野 正一

表参道・明治神宮外苑

そして新宿御苑街路見学・研修会

今年の夏は猛暑でしたが、そのためか紅葉は素晴らしいといえます。十一月二十八日(日)に都内の街路樹見学・研修会が行われました。参加者は十名。朝八時前、牛久駅出発。十時少し前、明治神宮到着。天候は晴天で絶好の見学・研修日でした。

最初の見学は表参道のケヤキ並木。若い人が集い、長い行列もあり活気一杯の雰囲気でした。道路の両側は立派に成長したケヤキの並木が、美しく黄葉していました。この並木は西暦一九一五年、明治神宮の計画的造林と同時期に植樹され、樹齢は八十五年といえます。街並みを歩くと、多くの派手な色彩のプティックが建ち並び活気に溢れています。今年は大い幹から小枝まで樹全体のライトアップも計画され、たくさんのLEDが配線されており、「夜は一段と華やかな風景となるだろう」と思いました。

交通の激しい交差点を過ぎて南青山の静かな街並みを歩く。前方のこんもりした森を見ながら左折すると、都立青山霊園。歩道の両側は見事なサクラ並木で、落ち葉の中をのんびりと散策しました。この霊園は明治七年(西暦一八七四年)、我国最初の公共墓地の一つとして設けられたもので、日本や東京の近代史に名を残す著名人の墓所が多数あります。

青山通りを左折すると神宮外苑のイチヨウ並木です。青山通りから円周道路まで三〇〇mの並木は一四六本が九m間隔に植えられ、見上げると空に向かって尖って見えます。四年に一度、一〜三月にかけて円錐三角に樹姿を整えているとか。樹齢は百余年で、

イチヨウの黄色の世界を満喫しました。丁度、イチヨウ祭りの開催中で、子供たちはイチヨウと戯れ、大勢の人たちが黄葉を楽しんでいました。

千駄ヶ谷駅前を通って新宿御苑へ。この御苑ができたのは明治三十九年(西暦一九〇六年)で信州高遠藩主内藤家の屋敷跡です。見所はフランス式整形庭園のプラタナス並木。青空に映えて凛として立つ見事な樹で、その黄色、褐色の落ち葉の感触はふわふわの絨毯のようで、童心に帰って踏み遊びました。また、大きな芝生では子供たちが駆け回り、木漏れ日のベンチでは老夫婦が安らいでいました。ケヤキ、サクラ、イチヨウそしてプラタナス並木と明治神宮周辺の街路見学・研修は晴天と時期に恵まれた素晴らしい一日でした。計画立案、下調べ、資料作成された探検チームの皆さん方に心より感謝いたします。



日本街路樹百景
 絵画館前イチヨウ祭りの街路景観
 増田 10.11.28



巨木リサーチ2事業報告
坂根 輝一

日枝神社の巨木等の保全活動

十一月七日(日)、晴。この日、管理グループは小坂町十三塚墓地のスタジイ周辺の下草刈りを終え、余力で上柏田の日枝神社に向かう。日枝神社は四百年ほど前に設けられた五穀豊穡を祈願する社である。参道沿いにスギ、社前にスタジイの巨木がある。他にコブシやヤブツバキ、ウワミズザクラ、イチヨウ等の古木も散見される。この鎮守の森も戦前まではよく管理されていただろうと思われるが、戦後の高度成長期を経て、祈願の必要性がうすれ、担い手も減りゆくなかで、狭められ、今や竹に埋もれる憂き目にあっている。

管理Gは以前二度、この神社にある「市民の木」の樹冠下のマダケを取り除き、樹木への日照や土壌養分の競争を軽減する活動を行ったが、今日訪ずれるのは社奥のイロハモミジ周辺の竹の伐採が目的である。密集する竹稈の間隙の奥にわずかに垣間見え



竹藪から救い出された
日枝神社イロハモミジ
渡辺 10.11.27

るイロハモミジ。竹槍の投擲(テキ)を雨と受けて取り囲われたかのような古木を救い出さんとばかりに、めいめいは、鋸、刈込み鋏、剪定鋏、草刈り鎌を携え、竹林に挑む。一本一本竹を根元で切断し、地に押し倒し、稈を短断し、枝を払い、所定の箇所に積み上げる。これら一連の作業は、誰言うことなく自然に分担され、よどみなく黙々と行われる。その間小一時間あまり。さしもの藪も一部あえなく陥落。するとそこには古木イロハモミジが開放され幾年かの眠りから覚めたようにすっきりと立つ。そのあらわに成った樹姿に皆は心手で拍手。「やあー綺麗になった。よかった、よかった」という声に、秋色の光をあびてイロハモミジも嬉しげである。

一樹の下わずかな範囲にある竹を伐採したばかりで、巨木保全と言える成果を求めるものではないが、少なくとも竹に埋もれた古木イロハモミジが「ここにまだいるよ」と何なく気づかれるようになったのが、なによりであろう。見上げれば秋空に高く貼りついたように見えるイロハモミジの葉裏からは、木漏れ日が微笑むようにこぼれる。

十年前までは、ここは村人が祈り、子等が遊ぶ里山景観の粹であったろうに。今なお境内の多くが竹に埋もれたまま、放置されている様には、心痛むものがある。神社の西隣は幼稚園・区民会館・住宅街、東隣には田畑が広がる。



雑木林応援隊
原口 隆男

ムジナの里で晩秋の風に誘われて

朝晩の冷気がようやく身にしみ頃になった十一月十四日(日)、久しぶりに「ムジナの里」での作業となりました。

周囲の景色はもつすっきり赤や黄色の落ち葉に一面覆われ、晩秋の「なぜか寂しげな風情」のただよ中で竹林の整備作業を開始。

一月に予定している竹炭焼きの準備と、ここにきて大幅に遅れている「観察の森入口」付近の竹垣修理のため、竹材を確保するのが目的である。

竹はそれぞれ目的に応じて切る時期があり、やたらに切ればよいと言うわけにはいかず、この時期を待つて満を持しての竹の切りだし作業なのです。特に真竹は扱いやすく女性の力でも簡単に切れ、枝払いも造作なくこなせるため、応援隊の中でも誰でも参加できる比較的軽度な作業です。

ここにきて、作業の参加者が減ってきて心配された応援隊ですが、少人数でも皆喜々として竹を切り出し、決められた寸法に切り揃える作業を難



晩秋の「なぜか寂しげな風情」の中で
雑木林亭での準備が進む

なくこなす様子を見てみると、「さすがいつも通り応援隊のメンバーは頼もしい限り」で危惧していた不安は吹き飛びます。

又、竹垣

用の竹材は枝を切る際に竹の表面に傷がつかないようにと、ナタで枝払いはずせずつ鋸で枝を切って仕上げ、竹垣を組んだ際に少しでも見栄えが良いようにと、細かい箇所までの心配りが欠かさない。

気のおけない仲間同士で、和気藹々とおしゃべり仕合ながらの作業がしばらく続いて、ようやくお昼過ぎに炭焼き用材料の準備と、竹垣修理用の材料の確保が出来たところで昼食となった。

野外で毎回楽しみにしている雑木林亭、お昼のメニューは今回も又、超豪華版！

旬のキノコをふんだんに取り入れたお鍋や野趣あふれる野菜料理の数々に皆心ゆくまで満喫。

「晩秋の風に誘われて」久々に心地のよい汗をかいて作業した一日でした。



きのこ鍋や野菜料理に舌鼓和気藹々とおしゃべり



親子農業体験講座
一般参加者 横山美晴

そば刈り体験

十一月に入り、朝の畑は一面日陰に覆われ少し冷え込んでいました。この前まであちこちでたくさんバツタが飛び交っていたのに、もうその姿は見られず冬の訪れを感じます。

今日は、二ヶ月前に蒔いたそばの種が四〇〜五〇センチ程に成長し実をつけたので、それらを刈り取る作業を行っていきます。単純作業かと思いきや、これが結構厄介なのです。まずそばの実是一本の茎に僅かしか突らないのですが、非常に繊細で、雑に刈るとすぐに落ちてしまうそうです。それに複数の茎や葉が複雑に絡み合っているため、注意しながら根本を刈っていかねばなりません。

慎重に、慎重に・・・子供と一緒にのこぎり鎌で刈ってみると、さほど力は要らず簡単に刈ることができました。

いつも畑作業への参加に消極的な一歳の娘も、「これは面白い！」と思ってくれたのか、一生懸命お手伝いをしてくれました。



親子で体験する「そばの実落とし」

そして作業は順調に進められ、思いのほか早く終わりました。

次は、刈り取ったそばを竹で作られた台に並べて干していきます。ここでも子供達が大張り切りで、僕が私が一番多く運べるんだ！と競争しているのが、両手いっぱいそばを抱えて運んでいきます。頑張ってくれるのはとっても嬉しいのですが・・・

「そんなにたくさん抱えて運ぶと、大事なそばが落ちちゃうよ！あゝ落ちてる落ちてる・・・」とあちこちで親達の声が聞こえ、子供達が落としていたそばを結局一本一本拾い集めるのでした(笑)

そして一週間後、乾燥させたそばの『実落とし』をしました。稲を脱穀する際の道具を用いたり、棒でそばを叩いたりしてある程度の実を落とし、それでもまだ残っている実を一つ一つ手で丁寧に取っていききました。その後、『唐実かけ』『製粉』といった工程を経て一ヶ月後そば打ちをし、やっと手作りそばを味わうことができます。一から作ったそばの味は、きつと格別でしょう。その日が今から待ち遠しいです。

『食』の魅力について「食べる」ことだけに目が行きがちでしたが、このように「創る」楽しさにも気付けたことで、私達も子供達も、より一層食事が楽しく感じられるようになりました。





里山自然観察隊

平塚 芳雄

今年度これまでの活動を振り返って

今年度（平成二十二年度）も早四分の三の期間が過ぎ新しい年を迎えました。この時期、これまでの観察隊の活動を振り返り、経過状況を評価・反省し、これからの三カ月の活動により発展的に来年度に繋げなければなりません。

今年度は一般参加者を募つての「植物観察会」の開催、環境省生物多様性センターの調査基準に副つた「モニタリング1000里地調査（植物相）」の実施。うしく里山の会主催の「里山の秋祭り」への参加。平成十九年度から三年間に渡つて実施した「小野川流域の雑木林と水田における植物調査」の冊子化を計画し推進してきました。

「植物観察会」に関しては四月（市内で見られ各種スミレの観察）、九月（湿地植物を見る）、十一月（里山で見られる果実）に予定通り開催しましたが、今年度の観察会は昨年度まで講師として観察会を指導してくださった渡辺泰さんの参加がなかったため内容的には専門性が薄くなった上、夏の猛暑、広報案内も積極的にしなかったことも



初冬の土手に咲くオキノゲシ

あり一般市民の参加も少なく、参加者は三回で延べ二十四名でした。

「モニタリング1000里地調査（植物）」は四月から定期的に毎月実施し十二月で九回に。

夏の猛暑、雑木林の中の蚊の襲来、植物名同定の難しさなど苦労がありますが地元の方々との会話や思わぬ面白いものなど楽しいこともありました。

ただ、調査に植物を良く知るメンバーが少ないため、植物名の同定に時間がかかり一回の調査に四時間以上かかっているのが難点です。

「里山の秋祭り」への参加は実施日当日雨となり中止せざるを得ませんでした。

「小野川流域の雑木林と水田の植物調査」の冊子化については担当者、プロジェクトメンバーが多忙で今年度当初の状況から進展していないのが現状です。

来年度の活動計画としては今年度に引き続き、「植物観察会」、「モニタリング1000里地調査」、「小野川流域の雑木林と水田の植物調査」の冊子化を三つの柱として行っていきたいと考えていますが、「植物観察会」においてはその内容を充実させ参加者を増やすこと、「モニタリング1000里地調査」では調査時間の短縮等の効率化を図る必要があります。そのためには観察隊のメンバーを増やし能力を高めなければなりません。

観察隊の目的は身近な自然の状況を知ることを通じて自然環境保全につながる活動を目指すものです。志ある皆さんの観察隊活動への参加を歓迎します。



牛久自然観察の森だより

渡邊 浩美

舞岡公園・小雀公園視察研修報告

去る十一月十五日

牛久自然観察の森の植生管理ボランティアの皆さんと「舞岡公園」と「小雀公園」へ研修に行つてきました。横浜市戸塚区にあるこの二つの公園は、牛久自然観察の森と同じく里山の保全を行っています。

まず最初に、舞岡公園の「小谷戸の里」



移築された古民家で昔の生活を紹介

見学です。移築された古民家が、今も現役で使われていました。

かまどには火が入れられ、煙でいぶして茅葺屋根を守っています。昔の農機具も現役のようです。納屋の軒先には、ここで収穫された大根が干してありました。

また、小さな小屋では、ここで作られた炭やぞうり、ほうきなど様々な里山の産物が売られています。

半野外のかまどは、この公園の畑から採れたものだけを使って炊き出しが行われるそうです。

この公園の指定管理者「舞岡公園田園・小谷戸の里管理運営委員会」の代表の小林さんが案内してくれました。

年間約一万五千人のボランティアによって、七haの公園を運営しているとのことでした。

さて、次は小雀公園に向かいました。小雀公園の指定管理者は、「緑とコミュニティ



整備された管理マニュアル

グループ」で近隣の造園業者のグループです。

この公園の管理マニュアルが認められ、国土交通大臣賞を受賞しました。

早速、公園内を見学です。急な坂を降りていくと、池があり

雑木林に囲まれていました。見通しのよい水辺には、ホタルも生息しているとのこと。アオサギやカワセミも見かけました。杉林は枝打ち、下草刈りなどの手入れが行き届いていました。

ただ、この公園にはボランティアはなく、造園業者ですべての作業を行っているとのことでした。

今回の研修で、全く違うタイプの指定管理者による里山の管理を見ることができました。舞岡公園では、たくさんの方々のボランティアの方々が活躍していることがわかり、小雀公園では、作業している造園業者の方から最初マニュアルの意味が分からなかったけれど、実際にその通り作業することで、生き物と共存するといことがわかってきたという言葉が印象に残りました。

これから、来年に向けて牛久自然観察の森でも作業などヒントをたくさん頂けました。舞岡公園、そして小雀公園の皆さん、ありがとうございました。

なお、小雀公園は平成二十一年二月の里山セミナーの講師をして頂いた横浜市の職員で、「生き物と共存する公園づくり」の著者でもある神保賢一路さんが関わった公園です。

「うしくの里山フォトカレンダー二〇一一年」

実行委員会事務局 阿部幸浩

みなさんが未来に残したい、大切にしたいと思う里山のイメージはどのようなものでしょうか？魅力ある里山の景観やそこに暮らす生き物たち、農業などの人々の生活の様子や子供たちの自然とのふれ合いなど・・・普段気がつかない沢山の魅力があると思います。

昨年度より実施しています「うしくの里山フォトコンテスト」は、市民のみなさんと身近な里山の環境に対する関心を高め、豊かな里山の環境作りに取り組むきっかけとなるよう写真と撮影者の思いを募集し、それらを共有することを目的として実施しています。



うしくの里山フォトカレンダー 2011 NPO法人うしく里山の会

この度、本年度の入賞作品のすべてを掲載した二〇一一年卓上カレンダーを作成しました。ご希望の方は牛久自然観察の森ネイチャーセンターまでお問い合わせください。（本事業は、公益信託エコーいばらき環境保全基金の助成を受けて実施しています）



12月19日(日)フォトコンテスト入賞者の表彰式を行いました。表彰式の後、全員で記念写真を撮りました。

運営委員会からのお知らせ

坂弘毅

第二回うしく里山フォトコンテストが

終了しました。

今年も素晴らしい作品が多数寄せられ、十二月十九日審査委員長の二科会写真部高橋扶臣先生、池辺牛久市長、教育委員会吉田教育部長他、審査委員ご出席のもと、表彰式が盛大に執り行われました。

二・公開里山セミナーについて

一月十五日(土) 十時より

「ナラ枯れの原因と防止対策」

講師 (独) 森林総合研究所

森林昆虫研究領域

領域長 牧野俊一氏

場所 ひたち野リフレ第一会議室

里山の原風景とも云われる雑木林(平地林)からカシノナガキクイムシによる枯死を防止するため、森林昆虫研究の第一人者をお呼びして講演会を行います。

皆様のご来場をお待ちしております。



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦 齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。活動には会員・一般問わず参加出来ます。皆様のご参加お待ちしております。

一月の活動日時

七日(金) 午前九時～十一時半、

十六日(日) 午後一時～三時半

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター

一階倉庫前(予約不要/荒天時は中止)

ホームページに情報掲載)

持ち物 長靴、軍手(長袖、長ズボンで)

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

(問合せ先) 029 874-6600 担当:石神)



牛久自然観察の森だより

チーフコーディネーター 齊藤 孝

「大好きいばらきエコチャレンジ(事業所部門) 最優秀賞(茨城県知事賞) 受賞報告!」

夏季に牛久自然観察の森として応募していた「大好き いばらき エコチャレンジ2010(事業所部門)」について、十一月二十九日付で、茨城県地球温暖化防止活動推進センター(クールアースいばらき)より最優秀賞(茨城県知事賞) 受賞の結果通知が届きました。

この取り組みの主催は茨城県で、「地球温暖化防止の為に温室効果ガスの排出量をどのくらい減量できるか」という課題について、「家庭」「グループ」「事業所」の三部門に分かれ「電力量、ガソリン使用量の削減」を競う、というものでした。

牛久自然観察の森として応募した「事業所部門」には県内各地三〇〇の事業所がエントリーしましたが、その第一位に輝いたことで、指定管理者第一期の素晴らしい実績がまた一つ増えたように思います。

ちなみに、この結果につながった電力量の削減ですが、昨年と今年の夏期間(七月と八月分)で、おおよそ三分の二に抑える事が出来た事が受賞につながったのではないかと思います。

この受賞に奢ることなく、今後具体的な努力を続けて参ります。皆さまのご協力を宜しくお願ひします。

今月の古木・希少木 No.45 サンゴジュ

関東地方南部以南の暖地に分布するスイカズラ科の常緑小高木。沿岸部の湿った林内にみられます。樹皮は粗く灰褐色で、枝には点々とした皮目が目立ちます。葉には、長さ一五cmの葉柄があり、全縁で対生します。濃緑色の分厚い葉は長さ七二十cm、なめらかで光沢があります。

水気を多く含み燃えにくいので、生け垣に多く利用されてきました。さらに大気汚染にも強いので、街路樹・庭園樹としても使われますが、都会では、サンゴジュハムシの大発生で穴だらけになっている葉が目につきます。

花期は六～七月、枝先に芳香のある小花が集まり穂になって咲きます。花は白色の筒型でオシベが突出します。写真のように八～十月にかけて房状に果実をつけ、赤色から黒色へ熟してゆきます。たつぷりと果実をつけるので、重みで枝先が垂れ下ってゆくほどです。

サンゴジュの名は真っ赤に色づく実を珊瑚に見立てたことからつきました。常緑樹ですが、落葉の時、葉は真っ赤に染まります。牛久市内ではアヤメ園近くの



房状に実をつけたサンゴジュ 10.10.20

東林寺入り口に大木があります。小高いところにスッキリと立っているのて遠くからでもその姿の良さがみとめられます。(假屋英子)

2011年 1月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
						1 (休園日)
2 (休園日)	3 (休園日)	4	5	6	7 Iコアツプ作戦 9:00NC	8 雑木林応援隊 9:00炭屋 里山自然観察隊 (モリツク里地調査) 9:00得月院P 親子農業体験講座 9:00NC
9 雑木林応援隊 (公開炭焼き講座) 9:00炭屋 (会報等原稿〆切)	10 雑木林応援隊 9:00炭屋	11 (休園日)	12 (休園日)	13 森の畑 9:30畑 (会報等原稿〆切)	14	15 公開里山セミナー 10:00 ひたち野リレ会議室
16 運営委員会9:00NC Iコアツプ作戦 13:00NC	17 (休園日)	18 森の畑 9:30畑 チム'街路樹20(受) 8:30市ボランティアC	19	20	21	22 チム'街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会) 親子農業体験講座 9:00畑 巨木リサーチ2(特) 9:00NC
23 雑木林応援隊 9:00炭屋 (会報原稿確認)	24 (休園日)	25 森の畑 9:30畑	26	27 会報発送 13:00NC	28	29
30	31 (休園日)					

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページ)のお知らせ欄)をご確認ください。

【凡例】

森:牛久自然観察の森
NC:牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P:牛久自然観察の森駐車場
炭小屋:牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑:牛久自然観察の森駐車場の畑
コジュケイ:牛久自然観察の森コジュケイの林
観察舎畑:牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ:結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所:牛久市役所本庁舎
ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C:牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園

(休園日):牛久自然観察の森休園日
(受):受託事業
(特):特別事業



編集後記

あけましておめでとつございます。

会員の皆さんも、それぞれ今年への思いを念じながら、よき新年をお迎えのことと思います。

日本では新年一月を睦月(むつき)と呼びますが、

睦月という名の由来は、親族一同が集まって宴をする「睦び月(むつびつき)」からと言われています。

そして、今年の干支は「ウサギ」ですね。

ウサギについて調べてみました。(ウイキペディア)

ウサギ目・ウサギ科で世界中に約五十種いるが、大別すると「ノウサギ類」と「アナウサギ類」に分けられます。

日本の固有種として知られているのが「ニホンノウサギ」で、古事記の「因幡の白兔(いなばのしろうさぎ)」としても古くから生息していました。

ウサギについてはいろいろ誤解もあるようです。

・ウサギは水を飲むと死ぬ ウサギでも水は飲みます。ただ湿度が高い環境では「コクシジウム」という病気になるやすく死亡率がたかいようです。

・ウサギは鳴かない 声帯がないため鳴くことはありませんが、食道を震わせて「ブツ、ブツ」と声をあげることがあります。

・ウサギの目は赤い 日本で古くから飼われている「ジャパニーズホワイト」は目が赤いが、種類によっては目の色は様々です。

また、ウサギの数え方は一羽・二羽と数えますが、なぜそうだったのか。仏教で四足の動物を食することが禁じられていたため、耳の長い部分が鳥の羽を連想させることや、ウ(鶉)とサギ(鷺)に分けられるから鳥だ、という解釈で食していた。従って鳥として数えていたという説があります。

今年も一年間、会報の発行を坂・佐藤が頑張りま

すのでよろしく願いいたします。(佐藤輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号2012年2月号の発送は1月27日(金)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いいたします。